

## 「近代の暴走と実心実学」

### 第 15 回<東アジア実学>国際フォーラム

片岡龍（東北大）

本号は、昨年冬に仙台市で開催した第 15 回<東アジア実学>国際フォーラム（総合主題「近代の暴走と実心実学」）の会員発表論文を中心に構成した特集です。

第 15 回<東アジア実学>国際フォーラムは、2019 年 12 月 21～22 日、東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟を会場にして行われました。韓国から 6 名、中国から 8 名（うち 2 名オブザーバー）の参加者を迎え、総勢 50 名を超える盛大なフォーラムとなりました（付録 1、2 参照）。また、翌 23 日はマイクロバスを借りて、岩手県奥州市の高野長英記念館やえさし藤原の郷へのエクスカージョンを実施しました。

【巻頭詩】の「劍鑄千代滄桑 四首」は、中国側参加者でもある会員の欧陽禎人さん（武漢大学・教授）がそのときの感懐を、帰国に際して寄せられたものです。まさに「新型コロナウイルス」の発見が最初に世界保健機構（WHO）に報告される直前です。その詩の中では、越境環境問題などにも触れながら、「東亜が探索する艱難辛苦の未来」について歌われています。そうした意味で「近代の暴走と実心実学」という主題は、現在のパンデミックによる危機的状況を先取りしていたと言えるかもしれません。

総合主題の「趣旨」は、以下のとおりです。

（趣旨文）

「近代」とは、古い既知の世界から新しい未知の世界へ踏み入ろうとする知識・感情・意志をもった時代である。そこにはつねにリスクと機会が伴っている。「暴走」とは、制御不可能性が高まるという意味である。したがって、暴走する「近代」とは、リスクを克服し、機会を活用するための科学（「実学」 true and real learning）の有効性が低下した時代と言える。あるいは、近代の科学技術（「実用実学」 real learning）自体が「暴走」し始めているとも言える。

「近代の暴走」概念は、世界が崩壊していく実感に支えられている。とりわけ、人間的構え・配慮・叡智を養うべき学問・教育の劣化が著しい。主題に「実

心実学」(true learning)を並置した理由である。「実心」とは主体の環境への尊厳ある向き合い方を示す。「実心」は個人の内面のあり方にとどまらない。それは、個人を超えた生命への畏敬でもある。「実心実学」は、「科学をしてすべての生命に奉仕する手立てとなさしめ」る(山尾三省)ことを志向する。

世界の崩壊に対し、装置や制度を取り替えるだけでは、まさに‘焼け石に水’である。「見たいと思う世界の変化に、自らならなければならない(Be the change you wish to see in the world)」(ガンディー)。「実心実学」は「実用実学」の自己変容の姿である。

「近代の暴走」概念は、近代自体の再定位も前提としている。近代は必ずしも、チキンゲームのように破局に直進していく欧米的近代とその亜流だけではない。かといって、農本主義、身分制社会、男中心主義などに後戻りするのでも、決してない。「実心実学」的近代とは何か？それはいつ始まり、どのように派生し、どこに旋回していくのか？その主体と社会編成の特質は？…。跨境や遷移という観点から、「近代」と「実学」の時空間を根本的に捉え直す。

以上の問題意識にもとづき、「実心実学」の過去・現在・未来について、真摯な対話を交わし、一定の合意にもとづく共同声明の発信を、本会議の最終目標としたい。

フォーラムは、中国実学研究会・韓国実学学会・日本東アジア実学研究会の各会長による、〈日・中・韓「実学」の理解と交流〉を目的とした基調報告から始まりました。なお、本特集では、日本側基調報告に寄せられた本郷隆盛さんのコメントも収録しました。

1日目午後から2日目午前にかけての発表は、〈第一論壇：「実心実学」の理論と歴史〉、〈第二論壇：「近代」と「実学」の関係を見直す〉、〈第三論壇：跨境する「実学」の論壇〉、〈若手研究者論壇〉の各論壇に分かれて行われ、各論壇ごとに〈総合討論〉も実施しました。

2日目午後は、総合主題にたいする〈全体討論〉の後、さらに〈今後に向けての対話〉を行いました。本号に収められた各論文は、このように積み重ねられた議論と対話の過程をふまえて改稿されたものです。充実した成果を、じっくりご堪能ください。

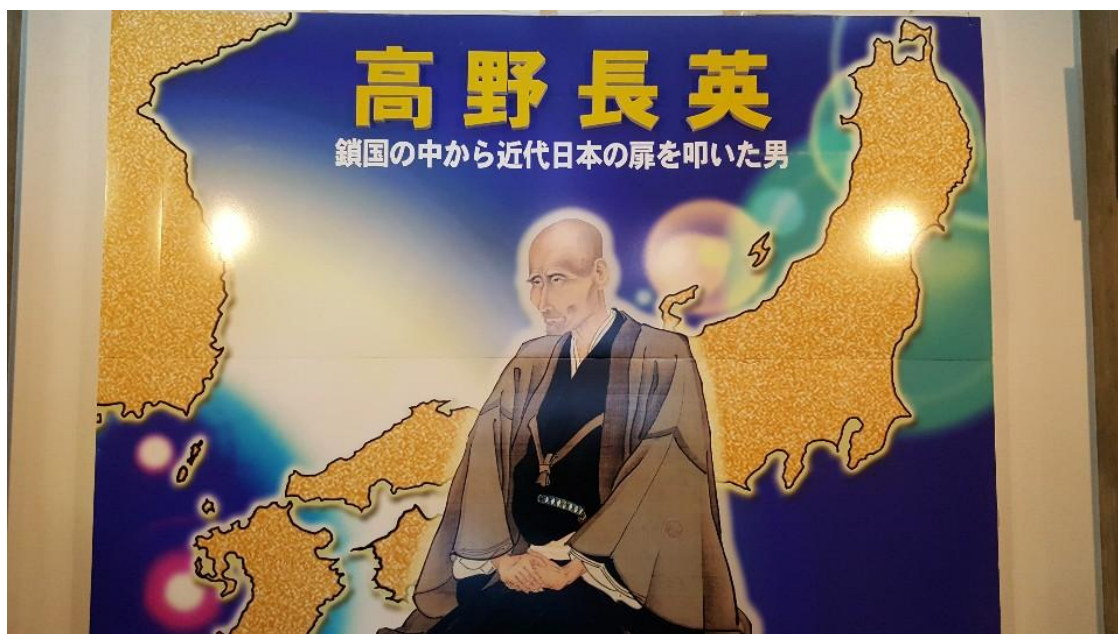
(文責：片岡龍)



第 15 回<東アジア実学>国際フォーラム 集合写真(第 1 会場)



フォーラム 2 日目の全体討論(第 2 会場)



高野長英記念館 展示ポスター(3 日目エキスカージョン)

(付録1)

## 第15回<東アジア実学>国際フォーラム「プログラム」

12月21日(土)

<会場1 経済学部第2講義室(204)>

10:00 開会挨拶・趣旨説明 <片岡龍>

**基調報告：日・中・韓「実学」の理解と交流** 司会：高橋恭寛

進行補助：王一兵・増田友哉

10:20 安秉杰「李瀾の心論とその指向」

10:50 王傑「東アジアの新たな実学体系を構築し、東アジアの新たな実学流派を作り  
上げよう」

11:20 片岡龍「いのちといのちの響き合いとしての「実心実学」：そのための三つの  
提案」

11:50 昼食

**第一論壇：「実心実学」の理論と歴史** 司会：小川晴久

進行補助：劉宇昊

12:50 涂可国「儒学の実用性と実用理性の展開」

13:10 田中マリア「北東アジアにおける環境共同体の形成からみる「実心実学」台頭  
の可能性」

13:30 全聖健「論実心実学弁」

13:50 咸泳大「実学の正徳・利用・厚生論再論」

14:10 李偉波「「踐形尽性」一顔元の修身の道」

14:30 ティーブレイク

**若手研究者論壇①**： 司会：小島康敬

進行補助：李越

14：45 ハンデンシ「日本中世末期における宋学の受容 —清原宣賢の『大学聴塵』を中心として—」

15：00 渡邊裕馬「『朱子大全筭疑問目』における「当考」の検討 —「書」を中心として—」

15：15 アリムトヘテイ「周縁文化の独自性と文化変容の理論研究 —東アジアとイスラーム文明圏間の関係及びその学際的研究をめぐって—」

15：30 楊世帆「『志学幼辨』における天人関係について—徂徠学の影響をめぐって—」

15：45 劉宇昊「中井履軒の思想における外在性要素 —『孟子逢原』の徳と悪の解釈を中心に—」

**総合討論 I** 司会：片岡龍

進行補助：丁濟□・杜絡嘉

16：10 第一論壇について <代表質問：小川晴久> 通訳：チェダウル・楊世帆

17：10 第二論壇について <代表質問：鈴木規夫> 通訳：陳宗炫・朱琳

18：10 閉場

<会場2 経済学部第3小講義室(213)>

**第二論壇：「近代」と「実学」の関係を見直す** 司会：鈴木規夫

進行補助：閻秋君

12：50 魏義霞「譚嗣同の实心実学と近代の暴走」

13：10 袁曉晶「『実学報』、実学教育と近代中国における政教の変革の思想基礎」

13：30 李炯丘「韓国実学活用様相に対する巨視的一考察」

13：50 大橋健二「長寿社会と現代文明 —東アジア〈西洋近代〉受容共同体のアポリアと展望—」

14：10 ティーブレイク

**若手研究者論壇②**： 司会：山内明美 進行補助：張倩鈺

- 14：25 王一兵「西洋地理学と蘭学者の世界観 一大槻玄沢を中心に一」  
14：40 閻秋君「近代の機械文明に対する漢学者・岡千仞の認識 一清国紀行文『観光紀遊』を中心に一」  
14：55 黄璐「九鬼周造における偶然性の内面化と「いき」」  
15：10 范帥帥「三十年代の鈴木大拙の思想変容について」  
15：25 保泉空「近代への祈り 一吉満義彦における超克論を中心として一」

**12月22日（日）**

<会場1 経済学部第2講義室（204）>

**第三論壇：跨境する「実学」** 司会：小倉紀蔵

進行補助：黄璐

- 10：00 河宇鳳「18世紀初葉の徂徠門派と朝鮮通信使との交流 一太宰春台の『韓館唱和稿』を中心に」  
10：20 金ボルム「『主制群徴』の伝来と受容 一人体論にたいする日中韓の理解を中心に」  
10：40 欧陽禎人「新文化運動に対する劉咸炘の態度」  
11：00 金鳳珍「東アジアの「儒教的近代」と日本の「兵学的近代」」  
11：20 板垣雄三「イスラーム文明から実心実学を見るパースペクティブ」  
11：50 昼食

<会場2 経済学部第3小講義室（213）>

**総合討論Ⅱ** 司会：別所興一 通訳：朴福美・ハンデンシ

進行補助：鎌田健太

12：50 第三論壇について <代表質問：小倉紀蔵>

**総合討論Ⅲ** 司会：片岡龍 通訳：陳宗炫・朱琳 進行補助：保泉空

13：50 総合主題（近代の暴走と「実心実学」）について

15：30 ティーブレイク

今後に向けての対話 司会：片岡龍 通訳：チェダウル・楊世帆

進行補助：范帥帥・辺景

15：45 次回開催国代表挨拶 <安秉杰>

16：00 日・中・韓「実学」研究の相互理解と共有目標

18：00 閉会挨拶 <片岡龍>

18：10 閉場

## 12月23日（月） エクスカーション

9：00 マイクロバスで「ホテルグランテラス仙台国分町」出発

10：30～12：00 「高野長英記念館」見学

12：30 「お休み処えさし藤原の郷」で昼食（一般：えさし卵麵御前、学生・冷麵焼肉膳）

13：15～15：00 「えさし郷土文化会館」、「えさし藤原の郷」見学

17：00 「ホテルグランテラス仙台国分町」到着

17：10 「仙台駅東口貸し切りバス降車場」到着



(付録2)

## 第15回<東アジア実学>国際フォーラム「名簿」

### 報告者

#### 日本

片岡龍 (KATAOKA Ryu) : 東北大学・大学院文学研究科・教授

板垣雄三 (ITAGAKI Yuzo) : 東京大学・名誉教授、東京経済大学・名誉教授

大橋健二 (OHASHI Kenji) : 鈴鹿医療科学大学・講師

金鳳珍 (KIM Bonjin) : 北九州市立大学・教授

田中マリア (TANAKA Maria) : 早稲田大学・現代中国研究所・招聘研究員

#### 韓国

安秉杰 (AHN Byung-Gul) : 安東大学校・東洋哲学科・教授

河宇鳳 (HA Woo-Bong) : 全北大学校・史学科・名誉教授

李垆丘 (LEE Kyung-Ku) : 翰林大学校・翰林科学院・院長

全聖健 (JEON Sung-Kun) : 安東大学校・東洋哲学科・教授

咸泳大 (HAM Young-Dae) : 成均館大学校・東アジア学術院・学術研究教授

金ボルム (KIM Bo-Rum) : 大林大学校・教養学部・講師

#### 中国

王傑 (WANG Jie) : 中共中央党校 (国家行政学院) 哲学・教授、博士生導師、

涂可国 (TU Keguo) : 山東社会科学院国際儒学研究与交流中心・主任、二級研究員

欧陽禎人 (OUYANG Zhenren) (本名: 張傑 ZHANG Jie) : 武漢大学・中国伝統文化研究中心・教授

魏義霞 (WEI Yixia) : 黒龍江大学・教授

袁曉晶 (YUAN Xiaojing) : 上海大学哲社科学部・副教授

李偉波 (Li Weibo) : 北京青年政治学院・東方道德研究所・副研究員

#### 若手

アリム・トヘテイ (ALIMUI Tuoheti) : 東北大学・学際科学フロンティア研究所・助

## 教

渡邊裕馬 (WATANABE Yuma) : 埼玉大学大学院・人文社会科学研究科・院生 (博士後期)

閻秋君 (YAN Qiujun) : 東北大学・大学院国際文化研究科・院生 (博士後期)

王一兵 (WANG Yibing) : 東北大学・大学院国際文化研究科・院生 (博士後期)

黄璐 (HUANG Lu) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士後期)

ハン・デンシ (FAN Chuanshen) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士後期)

范帥帥 (FAN Shuaishuai) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士後期)

劉宇昊 (LIU Yuhao) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士後期)

保泉空 (HOIZUMI Sora) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士前期)

## 討論者

小川晴久 (OGAWA Haruhisa) : 東京大学・名誉教授

鈴木規夫 (SUZUKI Norio) : 愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授

小倉紀蔵 (OGURA Kizo) : 京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

## 通訳者

朴福美 (PAK Ponmi) : 翻訳家

陳宗炫 (JIN Jonghyun) : 京都府立大学・文学部・研究員

朱琳 (ZHU Lin) : 中部大学中部高等学術研究所研究員

楊世帆 (YANG Shifan) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士後期)

ジョンジェヨン (JUNG Jae-Young) : 東北大学・大学院文学研究科・院生 (博士後期)

チェダウル (CHOI Dawool) : 東北韓国学フォーラム

## 司会

高橋恭寛 (TAKAHASHI Yasuhiro) 多摩大学・経営情報学部 (事業構想学科)・准教授

小島康敬 (KOJIMA Yasunori) : 国際基督教大学・教養学部・特任教授

山内明美 (YAMAUCHI Akemi) : 宮城教育大学・教育学部・准教授

別所 興一 (BESSYO Koichi) : 元・愛知大学・教授

## オブザーバー

郭代傑 (GUO Daijie) : 中共中央党校 (国家行政学院) ・博士生

楊建国 (YANG Jianguo) : 中儲粮培訓中心 ・執行董事、総経理

本郷隆盛 (HONGO Takamori) : 宮城教育大学 ・名誉教授

李仁子 (LEE In-ja) : 東北大学 ・大学院教育学研究科 ・准教授

## スタッフ

高橋光子 (TAKAHASHI Mitsuko) : 東北保健医療専門学校 ・教員

李越 (LI Yue) : 東北大学 ・大学院文学研究科 ・院生 (博士前期)

増田友哉 (MASUDA Tomoya) : 東北大学 ・大学院文学研究科 ・院生 (博士前期)

鎌田健太 (KAMADA Kenta) : 東北大学 ・大学院文学研究科 ・院生 (博士前期)

何佶穎 (HE Jiying) : 東北大学 ・大学院文学研究科 ・大学院研究生

張倩鈺 (ZHANG Qianyu) : 東北大学 ・大学院文学研究科 ・大学院研究生

杜絡嘉 (DU Luojia) : 東北大学 ・文学部 ・学部研究生

辺景 (BIAN Jing) : 東北大学 ・文学部 ・学部研究生